

平成27年度 校内研究計画

紫雲寺小学校研究推進委員会

1 研究主題

「学びの筋道が分かる授業の実現

～確かな『振り返り』につながる授業を求めて～（2年次）」

【授業のユニバーサルデザイン化を中心とした研修の充実】

2 研究主題の設定理由

（1）教育目標から

学校生活の大部分を占める授業は、児童の成長において大きな影響を与える。分かる喜びや学ぶ意義を実感できる授業では、児童は学び合いを通し、「知識・理解」、「表現力・思考力・判断力」といった能力を獲得したり、自己及び他者を理解し、自己有能感を感じたり、さらには様々な活動に対する意欲や望ましい態度などを育てていったりできる。

本校の教育目標は「ともにのびよう」である。児童が「できる・分かる」喜びを味わったり、友だちとの学び合いができたりする授業づくりを工夫することは、教育目標の具現にとって不可欠なことである。

今年度は、授業のユニバーサルデザイン化を中心として、どの児童にとっても、より学びの筋道が分かり、「できる・分かる」授業づくりを展開するために、本主題を上記のように設定した。

（2）子どもの実態から

本校は、明るく人なっっこい児童が多い。しかし、物事に根気強く取り組もうとする姿勢に欠けたり、学習に進んで取り組もうとする意欲に乏しかったりする児童も少なくない。

昨年度の全国学力・学習状況調査やNRT、県のWeb配信テストの結果などから、基礎的な学力は向上しつつあるが、応用力や論理的思考力、表現力といった力が2極化してきているという現実もみえてきた。

また、紫雲寺地区の小・中学校で統一した「学習3原則」や「家庭学習強調週間」を設定して取り組んできたことで、児童の家庭学習の習慣化が高まってきている。

そういった児童の学習意欲を一層高め、更なる学力の向上を図るために、「チーム紫雲寺」として、全校体制で「できる・分かる」授業づくりを目指していく。

（3）昨年度までの成果と課題から

昨年度は「学びの筋道が分かる授業の実現」の1年次ということで、学習の最後に

児童が確かな「振り返り」を書けるようにすることをねらって研究を進めてきた。その結果、授業の流れの中での見出しプレートの活用、「振り返り」の際のキーワードの提示、授業サイクルの統一など、それぞれに有効性を見いだすことができた。反面、それらを意識すればするほど、「振り返り」を書かせるための時間設定の難しさや、キーワードによって「振り返り」の内容が縛られるなどの課題も見えてきた。

そこで、今年度は、昨年度の「ねらい」「課題設定」「学習活動」「まとめ」などの授業サイクルをベースにした学習過程の構成と、学びの筋道が分かる構造的な板書の工夫を継続して研究していく。ただ、児童が他の子と関わり合う場の設定位置を発表の場に限定せず、課題提示の場面など柔軟性を持たせ、自分の考えと友だちの考えの違いに気付いたり、自分の考えをより深めたりする効果的な場面を模索する。その結果、「振り返り」の内容が、学習内容にとどまらず、友だちの考えの良さに気付いたり、自分の考えが深まったりするものになることを期待していく。

3 研究内容

(1) 今年度取り組む課題

昨年度は「学びの筋道が分かる授業の実現」を目指し、学習の最後に子どもたちが自分の言葉で確かな「振り返り」を書けるようにすることをねらって研究を進めてきた。その手立てとして、①『課題とまとめをつなぐ構造的な「板書」の工夫』、②『学びの筋道が分かる「ノート（指導）」の工夫』③『意欲を高め学びをつなげる「振り返り」の工夫』を柱に据え、全校体制で取り組み、成果を上げてきた。

今年度は、この研究のよさを踏襲しながら、目指す子ども像により近づけるために、どの子にとっても「ないと困る」や「あると便利」なユニバーサルデザイン化した授業づくりを全校体制で進めていく。

取り組む課題としては、昨年度取り組んだ「構造的な板書の工夫」「ノート指導の工夫」に加えて、次の5つに焦点を当て、取り組んでいく。

- ①子どもが解決の意欲と見通しがもてるような課題提示の工夫
- ②子どもたちが互いに学び合えるような関わり合いの場の設定
- ③考えを互いに認め合えるような学習集団の育成
- ④学習環境や学習の心構えを整えることによる、学力向上の基盤固め
- ⑤昨年度の授業サイクルをベースとした「学習過程」の工夫

(2) 児童の実態や学習内容に応じた授業サイクルを機能させた学習過程の工夫

「できる」「分かる」授業をより一層推進するために、学習過程の工夫は不可欠である。学習内容や児童の実態に応じて、「めあて」から「振り返り」まで、見通しの持てる学習過程を工夫していきたい。

(3) ベースとする学習過程

次のような学習過程をベースにししながら、児童の実態や学習内容に応じた工夫を盛り込んでいく。

めあて → 学習課題 何を学ぶか、学習の見通しをもたせる

※指導内容(基礎的・基本的な知識や技能)

自分の考えをもたせる

※答えと、なぜそう考えたのか考えの基になったことを表現させる。

考えをもつ

考えを整理する

どうすればいいのかな？
この前勉強した〇〇を使うとできそうだ。

ぼくの考えは、〇〇です。理由は、
…だからです。

答えは、Aです。理由は、…だから
です。

私は、Bです。理由は、…だからで
す。

ぼくは、Bと同じです。Bの理由
は、前にならった…なので、分かり
やすいからです。

ぼくは、…はBだと分かりました。理
由は、…だからです。

ぼくは、この授業で、答えはBで
あることがはっきりと分かりまし
た。この方法を使うと、簡単に答
えが出せることも分かりました。

他の問題でもこの方法が使えるか、今
度調べてみたいです。

発表させる・聴かせる

※話し合い活動。友だちの考えやその理由を聴き、自分の考えと比較し、課題解決のために思考・判断させる。

かかわり合
って、考え
を高め合う

まとめる

課題解決・まとめ

※課題解決したことを表現させる。

考えの深化
・拡充を自
覚する

振り返り

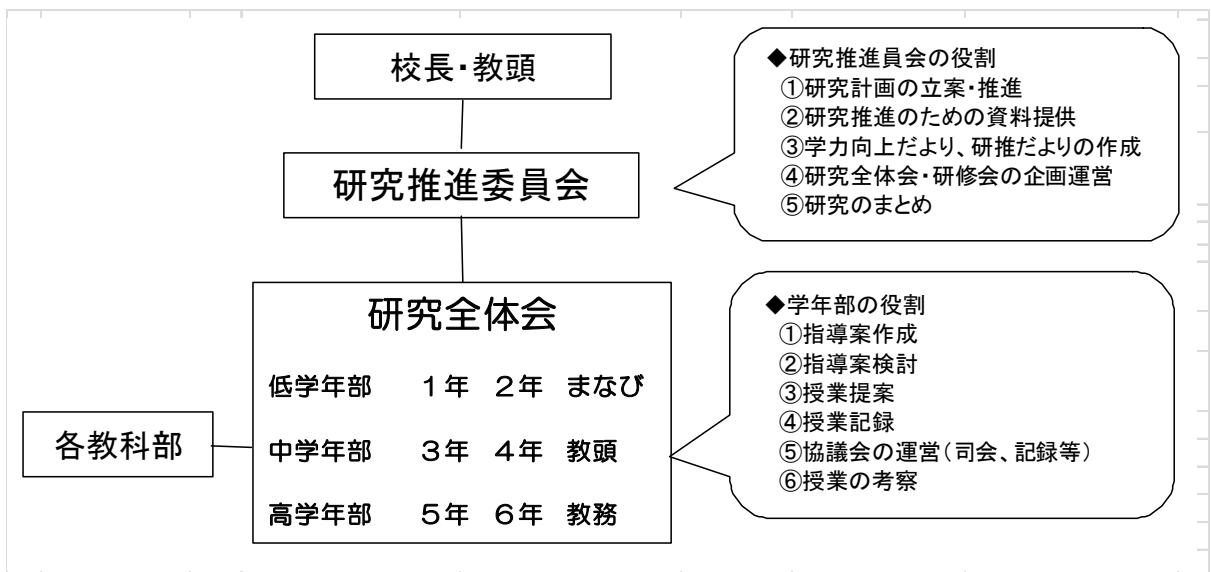
※自分の考えを見直させ、ねらいの達成度を確認させる。

次に生かす

思考力・判断力・表現力が育成される。

(4) 研究の進め方

- ① 低・中・高学年部単位の研究組織とし、学年部計画等の立案や授業実践を行う。
- ② 研究推進組織



(5) 研究授業について

全学級で、最低年1回の授業提案を行い、全員で参観・協議会をもつ。

- ① 市教委訪問、外部講師を招いての研究授業

- ・指導案の検討は、学年部で行った後、全体検討会を持つ。
- ・参観ならびに協議会は、全員参加とする。

② 上記以外の研究授業

- ・指導案検討会は、学年部＋研推委員で行う。参観ならびに協議会は、全員参加とする。
- ・級外も、可能な限り研究主題に沿った内容で授業提案をお願いしたい。その場合の参観は任意とし、全体協議会は行わない。(参観者は、感想等を授業者へ渡す。)

(6) 研究教科について

- ・教科は算数とする。

(7) 研究のまとめについて

- ・授業者は、研究内容に沿った授業の考察を行い、成果と課題を明らかにする。
- ・研究推進委員会は考察をとりまとめ、年度末に研究集録を作成する。

(8) 研究の年間予定

4月	研究推進部会会	
5月	研究全体会（全体計画の共通理解）	
6月	研究授業 5年 研究の授業提案 研究授業 4年 紫雲寺地区小中連携協議会授業公開	6月2日（火） 6月17日（水）
7月	研究授業 年	
8月	NRTの学級分析、1学期の研究のまとめ	
9月	研究授業 年	
10月	研究授業 2年 市教委訪問	10月23日（金）
11月	研究授業 年	
12月	研究授業 年	
1月	研究授業 年	
2月	研究のまとめ	
3月	次年度の方向性の検討、次年度案の作成	

4 指導案の形式

(1) 基本的な指導案の形式

- A 4 版表裏 1 枚。表に単元名と指導の構想、裏には横方向で板書計画、評価を記述する。
- 文字は、表題および柱立ては MS ゴシックで 1 3 P とする。それ以外は、MS 明朝体で 1 1 P を基本とする。
- 柱立ては、次の 4 つとする。
 - 1 「単元名」
 - 2 「本時のねらい及び指導の構想」・・・研究内容の観点から記述する。
 - 3 「板書計画」・・・学習の流れが見える構造的な「板書計画」を位置付ける。
めあて、課題、学習活動、関わり合う場を明記する。
 - 4 「評価」・・・参観や協議をするときの視点も記述する。

<p>〔表縦向き〕 第○学年 算数科学習指導案</p> <p style="text-align: right;">平成 2 7 年○月○日 () ○校時</p> <p style="text-align: right;">授業者 教諭 ○○ ○○</p>			
<p>1□ 単元名「○○○○○○○○○○」</p> <p>2□ 本時のねらい及び指導の構想 (本時○/□)</p> <p>①□ ねらい</p> <p>②□ 指導の構想</p>	<p>MS ゴシック体 1 3 ポイント</p> <p>MS 明朝体 1 1 ポイント</p>		
<p>3□ 板書計画 〔裏横向き〕</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>めあて</p> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 90%; margin-bottom: 5px;"></div> <p>課題</p> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 90%; margin-bottom: 5px;"></div> <p>学習活動①</p> <p>学習活動②</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>学習活動③ ★関わり合う場</p> <p>振り返り</p> </td> </tr> </table>		<p>めあて</p> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 90%; margin-bottom: 5px;"></div> <p>課題</p> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 90%; margin-bottom: 5px;"></div> <p>学習活動①</p> <p>学習活動②</p>	<p>学習活動③ ★関わり合う場</p> <p>振り返り</p>
<p>めあて</p> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 90%; margin-bottom: 5px;"></div> <p>課題</p> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 90%; margin-bottom: 5px;"></div> <p>学習活動①</p> <p>学習活動②</p>	<p>学習活動③ ★関わり合う場</p> <p>振り返り</p>		
<p>4 評価 (授業の視点)</p> <p>○</p> <p>○</p>			

(2) 市教委訪問等の指導案の形式

- A 4 版 3 枚程度。1 枚目の表裏に前段の部分、2 枚目には横方向で本時の指導、板書計画、評価を記述する。
- 文字は、表題および柱立てはMSゴシックで13Pとする。それ以外は、MS明朝体で11Pを基本とする。
- 柱立ては、次の6つとする。
 - 1 「単元名」
 - 2 「単元の目標」
 - 3 「単元の評価規準」・・・「基準」ではない。
 - 4 「子どもの実態と単元の構想」・・・研究内容の観点から記述する。
 - 5 「単元の指導計画」
 - 6 「本時の指導」
 - (1) 本時のねらい及び指導の構想
 - (2) 板書計画
 - (3) 評価

〔1枚目裏表縦向き〕 **第○学年 算数科学習指導案**

MSゴシック体 13ポイント

平成27年○月○日 () ○校時

授業者 教諭 ○○ ○○

1□単元名「○○○○○○○○○○」

2□単元の目標

◎

3□単元の評価規準

4□子どもの実態と単元の構想

(1) □子どもの実態

(2) □単元の構想

MS明朝体 11ポイント

5□単元の指導計画(全○時間)

次	時	主な学習内容
1	1	
	2	
2	3	

6□本時の指導

[2枚目表横向き]

(1)本時のねらい及び指導の構想(本時○/□時間)

(2)板書計画

<p>めあて</p> <p>[]</p> <p>課題</p> <p>[]</p> <p>学習活動①</p> <p>学習活動②</p>	<p>学習活動③ ★関わり合う場</p> <p>振り返り</p>
--	----------------------------------

(3)評価

○

○